

第七章 鑑定

第一節 鹽ノ鑑定

第一款 品位及等級

鹽ノ品位

我國ノ製鹽ニハ從來差鹽眞鹽ノ區別存セリト雖而モ其ノ品質ハ多ク顧ミラレサリシ所ニシテ一般ノ取引ニ於テモ價格ノ標準ハ殆ト容量ニ在リ色相潔白ニシテ結晶細カク容積大ナルモノヲ以テ良品ナリト信セラレ其ノ實質鹽化曹達ノ含量ノ多少ノ如キハ措テ問ハサルノ觀ナキニアラサリキ然レトモ鹽ノ品質ハ純粹ノ鹽分多キモノ即チ鹽化曹達ノ含量多キモノヲ以テ良シトセサルヘカラス何トナレハ鹽ハ其ノ主成分ナル鹽化曹達ト水其ノ他ノ夾雜鹽類ヨリ成リ夾雜鹽類中ノ多クハ白色ナルヲ以テ鹽ノ品位ハ白色ノモノ必スシモ善良ナリト謂フヲ得ヘカラサレハナリ又各種夾雜成分ハ其ノ性質上食鹽ノ品位ヲ劣化セシメ而モ其ノ夾雜成分ノ種類ニ由リ各劣化セシムル程度ヲ異ニス例ヘハ同量ノ鹽化曹達ヲ含有スル二種ノ食鹽アリト假定シ其ノ一ハ夾雜鹽類ヲ他ノ一ハ水分ヲ孰レモ同量ニ含有スルモノトセハ鹽トシテノ品位ハ後者ヲ以テ佳良ナリト認メサルヲ得ス何トナレハ水分ノ如キハ單ニ日乾ニ依リ或ル程度迄任意之ヲ減少セシムルコトヲ得ヘキモ夾雜鹽類ニ至リテハ比較的複雜ナル精製加工ヲ施スニ非サレハ之ヲ脫離スルコト難シ既ニ此ノ如キ事情アル以上ハ此ノ種ノ夾雜成分カ食鹽ヲ劣化セシムル程度ハ之ヲ同一ト認ムルコト能ハサルナリ故ニ鹽ノ品位ニ對シ鑑定上ノ方針ヲ定ムルニ方リテハ此等各種夾雜成分カ食鹽ノ品位ヲ劣化セシムル標準ヲ定ムルト同時ニ鹽ノ等級ノ區分ヲ定ムルコトハ須ク講究ヲ要ス

ヘキ最重要ナル問題ノ一タリシナリ

鹽ノ等級ヲ定ムル大體ノ方針ニ關シテハ鹽專賣法實施ノ議漸ク熟スルニ方リ其ノ標準ヲ鹽化曹達水以外ノ夾雜物ノ百分比例ニ採ルヲ相當ナリトシ本法實施計劃上ニ關聯セル重要ナル諸種ノ問題ト共ニ之ヲ決定シタリ然レトモ鹽ノ各種夾雜成分ハ其ノ種類ニ依リ食鹽ノ品位ヲ劣化セシムル程度ヲ異ニスルハ前述ノ如クナルヲ以テ其ノ程度ヲ定メ水ニ對シテハ一、一夾雜物ニ對シテハ一、二ノ係數ヲ各其ノ含量ニ乘シ計算シテ定ムルコトニ決定シタリ

鹽ノ品質ノ鑑定ハ此ノ如ク原則トシテハ鹽化曹達ノ含量ニ依リテ定ムルコトトナリタリト雖從來一般ニ鹽ハ白色ノモノヲ以テ良鹽ナリト見ルノ習慣アルヲ以テ鑑定上全ク色相ヲ外ニスルカ如キハ未タ完全ナル鑑定法ト云フヘカラス標本ヲ備ヘテ肉眼鑑定ニ依ルトキハ自然色相ヲモ參酌セラルルニ拘ラス分析鑑定ニ依ルトキハ全ク之ヲ度外スルカ如キハ矛盾ノ感ナキ能ハス故ニ色相ヲ鑑定上ノ原則ニ加ヘテ之ヲ發表シ其ノ效力ヲ實際ニ及ホサシムルノ途ヲ講スルハ極メテ緊要ナル問題ナリト雖而モ之ヲ鑑定要件ニ加フルトセハ如何ナル方法ニ據ルヘキヤ各地ニ於ケル實際ノ意見ヲ徵スルノ必要アリ遂ニ明治三十九年四月開催ノ鹽務局長會議ニ對シ之ヲ鑑定要件ニ加フルノ要否及若シ其ノ要アリトセハ方法如何ヲ諮問セラレタルニ當時各局トモ之ヲ鑑定ノ要件ニ加フルノ要アリトノコトニ意見一致セシモ其ノ方法ニ關シテハ尙考慮ヲ要スヘキモノアリトシ後日ノ研究ニ讓ルコトトナレリ

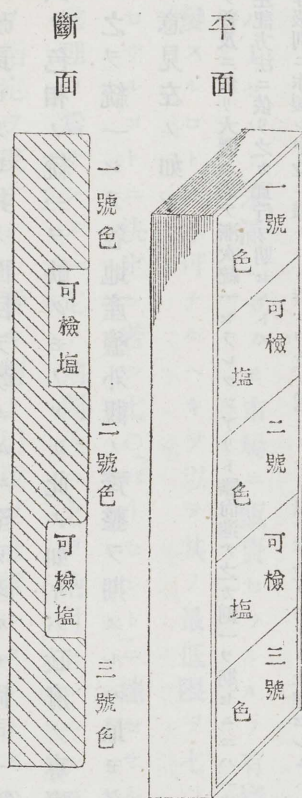
續テ明治四十年六月鹽務技術員ノ打合會開催セラレタルヲ以テ色相標本ノ作製方法如何ヲ諮問セラレタルニ各局ノ見ル所區々ニシテ決定ヲ見ルコト容易ナラサルモノアリタルヲ以テ結局委員ヲ選ヒ慎重ナル調査ヲ遂クルコトトナリタリ當時調査委員ノ報告ハ左ノ如シ

一 色相等級ハ一等ヨリ五等ニ至ル五種トス

- 二 色相等級カ鹽化曹達ニ依ル等級ヨリ一等ヲ下ル毎ニ二五パーセントノ鹽化曹達量ヲ減少シテ等級ヲ定ムルコト
- 三 色相等級五等ニ達セサルモノハ收納セサルコト
- 四 色相標本ハ青味赤味ノ二種ニ調製スルコト
- 五 色相標本ハ主稅局ニテ調製配付ノコト
- 六 右標本ハ調製セラレタル上ハ各局ニ配付シ意見ヲ徵シ然後決定セララルコト

主稅局ニ於テハ打合會ノ決議ニ基キ可成多數ノ鹽ニ就キ其ノ標本ヲ調製シ左ノ調査案ヲ添附シテ之ヲ各地ニ配付シ以テ實行上ニ對スル各地ノ意見ヲ求メタリ

- 一 色相ノ鑑定ハ色相標本ニ對照シテ之ヲ定ムルコトトシ先ツ多數ノ鹽ノ色相ヲ觀察シテ其ノ標本の色相ヲ一等ヨリ五等ニ分ツコト
- 二 然レトモ色相標本ハ之ヲ五等級ニ區分スルコト能ハサルヲ以テ一號乃至三號ノ三種トスルコト
- 三 右三種ノ色相ヲ各別ニ布ニ塗抹シ之ヲ硝子板ニ枚表面ノ硝子板ハ無色ノモノヲ用フヘキモ裏面ノモノハ然ラサルモノニテモ可ナリニ挾ミ木製黒漆塗ノ器内ニ入レ其ノ中間ニ可檢鹽ヲ置キ其ノ左右ノ色相ト對照スルコト



- 四 一號、二號、三號ノ色相ニ一致スルモノハ一等、三等、五等色相トシ一號二號間ニアルモノハ二等色相トシ三號間ニアルモノハ四等色相トナスコト
 - 五 從來ノ鑑定成績ニ依ル各等級鹽ニシテ其ノ色相カ一等ヲ下ル毎ニ鑑定成績百分ノ五ヲ減シテ等級ヲ定ムルコト
- 前記ノ色相鑑定法ニ依ル結果專賣法施行細則第十七條第二項ニ更ニ左ノ意味ノ規定ヲ追加スルコト
- 可檢鹽ノ色相ニシテ別ニ定ムル標本ニ對照シ其ノ色相等級カ鹽化曹達ノ含有量ニ依リ決定セラレタル等級ヨリ一等ヲ下ル毎ニ更ニ百分ノ五ヲ減シテ其ノ等級ヲ定ムルコト

然レトモ此ノ如キ方法ニ依ルトキハ收納鹽ノ鑑定成績ハ色相不良ナルモノニ在リテハ從前ヨリ低下スルコトアルモ其ノ佳良ナルモノハ敢テ上昇スルコトナキヲ以テ結局鹽業者ノ苦痛ヲ増加シ遂ニ賠償價格ニ對スル苦情ヲ惹起スルノ憂ナシトセス然レトモ若シ色相佳良ナルカ故ニ其ノ

等級ヲ上進セシムルコトトセハ將來苦土、石灰、加里鹽類等ヲ多量ニ混入シテ其ノ色相ノミヲ白カラシメタルモノモ尙上級鹽トシテ鑑定セサルヘカラサル不都合ヲ生スヘシ要スルニ本問題ハ政策上直ニ實行困難ナルモノアルヲ以テ須ラク各種ノ方面ヨリ尙慎重ナル研究ヲ遂クルコトトシ遂ニ他日ノ問題ニ讓ルコトトナレリ

明治四十五年三月鹽關係ノ技術課長會議開催セラレタル際ニ在リテモ更ニ鹽ノ品質主トシテ色相結晶ノ状態ヲ統一スルノ方法如何トノ問題ヲ提出シテ諮問セラレタリ蓋シ專賣法實施後鹽質ハ各地トモ大ニ改良セラレ其ノ面目ヲ改ムルニ至リタルモ尙同一等級ノ鹽ニシテ其ノ產地ヲ異ニスルカ爲ニ其ノ色相ノ統一ヲ缺クモノアリ此ノ如キハ政府ノ專賣品トシテ缺點ナリト云ハサルヘカラス故ニ之ヲ統一シテ各地產鹽外觀ノ齊整ヲ期スルハ最モ必要ナリト認ムルニ至リタリ當時調査委員ノ意見左ノ如シ

鹽ノ品質ハ改良設備ノ普及ニ依リ大體ニ於テ漸次統一セラレツツアリト雖尙進テ之方劃一ヲ期セムニハ一般的ニ比準スヘキ色相標本鹽ニ據ルノ必要アルモノト信スルニ依リ左記方法ニ依リ之カ實行ヲ期セムトス

- 一 色相標本鹽ハ各等級別ニ作製シ中位ニ據ルコト特ニ中位ヲ選ヒタルヲ以テ下位ノモノヲ上進セシムヘク又上位ノモノハ下降ヲ防クニ足り若シ鹽業者ニ示スコトアルモ別ニ不都合ヲ感セサルニ因ル但シ結晶ノ點ハ追テ加味スルコト
- 二 鹽ノ色相ヲ一定スル爲直ニ規定ノ改廢ヲ行フコトナク尙後約一箇年ノ豫定ヲ以テ強制的ニ依ラス可成鹽業者ヲ誘導シ製鹽法ノ改良ニ依リテ各支局ノ產鹽ヲ右色相標本ニ近邁セシムルコトニ努メ其ノ成績ニ鑑ミ徐ニ規定ノ改廢ヲ行フコト
- 三 右標本ハ本局ニ於テ調製シ支局及支署ニ送付スルコト
- 四 品質統一ノ爲指示事項ヲ規定スルコト
- 五 品質統一上本局ヨリ時々各地ニ技術官ヲ派遣シ支局毎ニ若ハ十州聯合鹽品評會ヲ開催シ或ハ毎年一回東京若ハ十州ニ於テ技術課長會議ヲ開催スル等適宜ノ處置ヲ執ラレタキコト

依テ當時標本ヲ定メテ之ニ據ラシメムコトヲ期シタルモ由來我國ノ產鹽ハ地方ニ依リ地方的特性ヲ有シ而モ其ノ特性ハ依テ來ル所極メテ遠ク一朝一夕ノ故ニアラサルヲ以テ標本ニ據ラシムルトキハ色相ノ不良ナルモノハ強テ之ヲ上進セシメサルヘカラサルコトトナリ製鹽者ノ苦情ヲ

惹起スルノ憂アリ一片ノ法則ヲ掲ケテ直ニ之ヲ強制シ得ヘカラサル事情アルヲ以テ強制的規定ヲ設クルニ先チ當業者ヲ指導シテ製鹽ノ實狀ヲ改善セシメ其ノ色相ノ如キ須ラク一般ニ均シク標本ニ近邇セルノ時ヲ待テ徐ニ規定ノ改廢ヲ爲スモ未タ以テ遲シト爲サスト云フコトニ決定シ色相ヲ鑑定ノ條件ニ加ヘ之ヲ法規ニ掲クルコトハ暫ク延期シタリ

鹽ノ等級

鹽專賣法ハ收入ヲ目的トシテ實施セラレタルモノナルモ而モ之ニ依リ品質ヲ劣化セシムヘカラス而シテ品質ノ劣化ヲ防キ寧ロ從來ヨリモ之カ改善ヲ期セムトセハ收納品位ノ標準ノ如キ亦或ル程度ニ之ヲ維持セサルヘカラス當時民間ノ狀態ヲ見ルトキハ其ノ程度尙極メテ低クシテ鹽化曹達ノ含量六〇「パーセント」未滿ノモノモ市場ニ販賣セラルルノ有様ナルヲ以テ專賣ノ實施ニ依リ其ノ狀態ヲ急變スルコトハ不可ナルヘキヲ以テ其ノ最低限ヲ七〇「パーセント」トシテ之ニ達セサルモノハ收納セサルコトニ決定シ若シ七〇「パーセント」ニ達セサルトキハ製造者ヲシテ更ニ乾燥、再製等相當ノ處理ヲ爲サシメ一定ノ期間内ニ之ヲ納付セシムルモノト爲シタリ尤モ指定引渡ノ場合ニ於テ其ノ指定ヲ受ケタル者カ鹽ノ引取ヲ承諾シタルトキハ一定ノ割合ヲ以テ賠償金ヲ減少シ特ニ等外鹽トシテ收納ヲ許スコトトセリ

此ノ如ク鹽化曹達ノ含量七〇「パーセント」以上ノモノヲ收納スルコトトシ等級區分ヲ五階級ト爲シ各等級間ニ五「パーセント」ノ開差ヲ付シ九十「パーセント」以上ノモノヲ一等トシタリ

大藏省令第二十二號(再録) (明治三十八年四月一日)

鹽專賣法施行細則(抄録)

第十七條 鹽ノ品質ハ其ノ含有スル鹽化曹達ノ量ニ依リテ之ヲ定メ左ノ五等ニ區分ス

一等 含有鹽化曹達量 百分ノ九十以上

第七章 鑑定

二等	同	百分ノ八十五以上
三等	同	百分ノ八十以上
四等	同	百分ノ七十五以上
五等	同	百分ノ七十以上

前項鹽化曹達ノ量ハ可檢物ノ量ヨリ其ノ含有スル水及夾雜物ノ量ニ左ノ係數ヲ乘シタルモノヲ控除シテ之ヲ定ム

一 水 一、一

二 夾雜物 一、二

鹽ノ等級區分ノ適否ニ關シテハ專賣法實施ノ翌月即チ明治三十八年七月開催セラレタル鹽務局長會議へ諮問セラレタリ蓋シ專賣法實施ノ初年タル明治三十八年ハ春以來天候不長ニシテ鹽ノ生産思ハシカラス且日露戰役ノ影響ハ著シク物價及勞銀ヲ騰貴セシメ生産ノ不足ハ鹽價ノ騰貴ヲ促シ勞銀物價ノ騰貴ハ鹽賠償價格ノ苦情ヲ惹起シ品質モ亦之ニ伴フテ良好ナラス當時ノ世論ハ之ヲ以テ專賣制度ノ缺點ナリトセリ之ニ對スル各局ノ意見ハ假ニ等級ヲ減少シテ其ノ範圍ヲ大ナラシムルトキハ鑑定ノ簡易ナルト出納保存上ノ手續容易ナル利益アルモ同一區分内ニ在リテハ寧ロ其ノ最低位ノモノヲ製造セムコトニ傾クヘキヲ以テ鹽ノ品質ヲ劣化セシムルノ憂アリ此ノ點ヨリ見ルトキハ等級ノ範圍ハ之ヲ小ニスル程可ナリト雖鑑定ニ付テハ肉眼ヲ以テ之ヲ識別スルコトハ現在ノ五等級ニ於テモ尙且之ヲ區分スルコト困難ナルニ係ラス尙現在ヨリ以上ニ之ヲ細分スルトキハ益肉眼鑑定ノ困難ヲ來スニ至ルヘク又出納保管ニ付テモ其ノ種類多キ丈ケ手續ヲ増加スヘキノミナラス其ノ區分小ナルニ從ヒ保存中等級變更等ノ手續ヲ要スルコト益多カルヘシ又販賣人ニ於テハ五等級ニ於テスラ尙且之ヲ區分シテ販賣スルコト困難ナリトノ世評アルニ尙之ヲ細分スルトキハ一層ノ困難ヲ來スト同時ニ奸譎ナル商人ニ在リテハ猥ニ等級ヲ紛更シテ販賣シ以テ消費者ヲ欺罔スルナキヲ保セス故ニ含有鹽分七〇「パーセント」以上ニ於テハ現在等級ヲ減スルコトモ又之ヲ増スコトモ共ニ不可ナリト云フニ在リ又七〇「パーセント」ヲ最低度

トシタルハ我國當時ノ製鹽ノ狀況ニ鑒ミ之ヲ急變スルコトノ不可ナルヲ認メ其ノ程度低キニ失スルノ感ナキニ拘ハラス尙七〇「パーセント」ヲ最低限トシタルモノナルヲ以テ之ヲ引下クルコトハ益品質ヲ劣化セシムヘキニ依リ一層不可ナリト云フニ在リキ而シテ鑑定上係數ヲ存スルコトハ地方ニ依リテハ鹽ノ品質不良ナルカ爲肉眼ニテ合格セルモノモ分析シテ係數ヲ乘スルトキハ不合格トナルモノ少カラス爲ニ賠償價格ヲ不當ナリトスルノ苦情ヲ惹起セルヲ以テ政策上之ヲ廢止スルヲ便トスルモノナキニアラサリシト雖鑑定上係數ヲ存スルコトハ理論上正當ナル所ナルヲ以テ此ノ如キ一時的現象ニ左右セラレテ此ノ明白ナル理論ヲ覆スカ如キハ不可ナリト云フニ在リテ結局現状ヲ維持スルコトトナリ延テ今日ニ及ヘリ

鹽專賣ニ於テハ鹽ノ品質ヲ改善シ粗惡鹽ヲ收納セサルコトハ專賣法制定當初ニ於ケル方針ナリ故ニ其ノ實施ニ先チ從來多ク粗惡鹽ヲ製造セル地方ニ對シテハ不合格鹽ヲ生セシメサル様特ニ注意スル所アリシモ明治三十八年ニ於ケル稀有ノ凶作ハ鹽ノ生産額減少シテ賠償價格ニ對スル苦情トナリ鹽ノ供給不足ハ鹽價ノ騰貴ヲ促シ其ノ極遂ニ臨機ノ處置トシテ一時等外鹽ヲ收納スルノ已ムヲ得サルニ至レリ然レトモ七〇「パーセント」未滿ノ等外鹽ヲ收納スルハ既定ノ方針ヲ破壞スル所以ナルヲ以テ副産的粗惡鹽及鼠鹽、コーラ、葡萄鹽、泥鹽等ノ外一般的粗惡鹽ヲ收納スルコトハ極メテ不得策ナルヲ以テ之ヲ收納スルトスルモ其ノ收納ハ一時的臨機ノ方法ニ止ムヘキハ勿論其ノ賠償價格ノ如キモ亦特別ニ之ヲ定メタリ然レトモ等外鹽ノ收納カ鹽質ノ改良ヲ妨ケ販賣上諸種ノ弊害ヲ醸シ專賣政策上憂フヘキモノアルハ言ヲ俟タサル所ナルヲ以テ政府ハ一面ニ於テ銳意製造業者ヲ獎勵シテ鹽質ノ改良ヲ圖ラシムルト同時ニ等外鹽ノ收納ハ漸次之ヲ拒否スルノ方針ヲ採リタル結果年ヲ逐フテ其ノ面目ヲ改メ等外鹽ノ收納ハ明治三十九年頃ニ在リテハ全收納高ノ三分八厘ヲ占メタルモ明治四十二年ノ交ニ至リテハ僅ニ三厘ヲ占ムルニ過キサレコ

トトナレリ是ヲ以テ同年四月ヨリ等外鹽ハ副産的ノモノ及特殊ノモノヲ除ク外ハ斷然之カ收納ヲ拒否スルノ方針ヲ採ルニ至レリ即チ等外鹽ハ假令引取ヲ望ムモノアリト雖肥料又ハ選種等ノ用途ニ使用セラルルモノニ限り之ヲ收納シ其ノ他ハ絶對ニ之ヲ拒否シ適宜處理ノ方法ヲ講セシメ到底處理ノ見込ナキモノハ石釜ノ築造、鹹水溜ニ投入、沼井若ハ鹽田ニ撒布若ハ廢棄セシムル等相當ノ措置ヲ講セシメ以テ等外鹽ノ絶滅ヲ圖レリ今收納鹽品質ノ變遷ヲ示セハ左ノ如シ

年次	鹽化曹達	夾雜物	水分	專賣法ニ依ル鑑定成績	備考
明治四十年十一月	パーセント 七六、一六	パーセント 一一、一四	パーセント 一一、七〇	パーセント 七二、五六	全國六十三箇所ニ於ケル收納鹽ニ對シ收納ノ都度一定ノ比準ニ應シ供試品ヲ採集シ一箇月毎ニ分析シ其ノ成績ヲ收納數量ニ應シテ算出シタルモノナリ
同四十二年	七三、三四	一一、三二	一一、三五	七三、九四	
同四十三年	七八、三六	一〇、七七	一〇、八七	七五、一二	
同四十四年	七九、一四	一〇、五四	一〇、三三	七六、〇〇	
同四十五年	七九、三五	一〇、三三	一〇、三三	七六、二五	
大正元年	七九、二八	一〇、三三	一〇、四二	七六、一八	
同二年	七九、六五	一〇、一一	一〇、二四	七六、六〇	
同三年					
同四年					
同五年					

鹽專賣法施行前ニ在リテハ鹽ノ煎熬ニ際シ多クハ苦汁ヲ注加シテ所謂差シ鹽ナルモノヲ製造シ焚上後直ニ之ヲ販賣シタル爲鹽ノ品質頗ル粗惡ナリシカ專賣法實施後鹽ノ製造ニハ成ルヘク苦汁注加ヲ節シ或ハ全ク之ヲ廢止シテ眞鹽焚ト爲シ其ノ製造後少クトモ二日ヲ經過シタル後政府ニ納付スルコトトナリ其ノ他採鹹、煎熬、貯藏上ノ改良ヲ圖リタル爲鹽ノ品質ハ年ヲ逐フテ漸次良好ニ赴キタル結果現今等外鹽ハ殆ト絶滅ニ近ツキ殊ニ三等鹽ハ比較的著シク其ノ數量ヲ増加シ五等鹽ノ次ニ位スルニ至レリ左ニ專賣法施行後各年ノ鹽等級別製造高ヲ掲ケ其ノ變遷ヲ示スヘシ

年度別等級	一等	二等	三等	四等	五等	等外	計
明治三十八年度 自六月	三、二一三、九八三斤	二四、九四八、七一九斤	八三、六五九、三三三斤	一一八、七五六、一四六斤	三〇七、五九〇、六五七斤	一六、五一四、一一五斤	五五四、六八二、九四三斤
同三十九年度	八九三、八七八	二〇、五九八、五六六	一二八、四三五、四〇七	一五二、七四五、九〇九	六〇三、二八二、四四六	三五、三五六、二七七	九四一、三二一、四八三
同四十年	三、一一三、四八八	二三、〇四九、一一二	一四五、五六〇、五一四	一二四、五一八、四六二	六七二、五九〇、七八四	二〇、二三三、一九四	九八九、〇六五、五六五
同四十一年	三、七〇九、八〇一	二八、五九八、〇四九	一九六、四七八、四七七	一三〇、〇〇一、八三三	六六九、五四三、七七九	九、七二五、七五八	一、〇三八、〇四七、六九六
同四十二年	三、六八〇、七七五	二六、〇九五、九五四	二〇〇、二五、九九三	一一二、九九三、一一二	六三八、九一一、四九八	三、二二九、〇三四	九九四、九七六、三六六
同四十三年	一、七六八、九二〇	二六、四〇八、二二七	二二三、二六六、一四一	一一九、三九三、四三六	五七三、六一三、二二二	一、六四二、〇五二	九四六、一九一、九九八
同四十四年	八六九、五一〇	二八、一七一、五二四	二三五、〇四二、九五四	八四二、〇四三、五〇七	五九九、五二六、八一四	一、四一八、一〇〇	九四九、二二三、二五二
大正元年	一、三九五、七〇五	三三、〇八一、一〇九	二六二、一一二、九三六	八二、八四〇、四三九	六五四、三九〇、七八四	六一四、三〇一	一、〇三三、四四五、二六四
同二年 自四月至七月	九〇八、三三六	三〇、八七三、四八五	二九五、八九六、九四四	七〇、九五三、三三三	五六一、四〇一、六六七	三九八、一四〇	九六〇、四三二、八七六

第二款 鑑定方法

鑑定方法

鹽ノ鑑定ハ分析ト肉眼トニ依リ之ヲ行フモ常時ノ鑑定ハ肉眼ニ依リ肉眼ニ依リ難キ場合及再鑑定ニ對シテハ分析ニ依ルヲ原則トセリ而シテ肉眼鑑定ハ標本ニ比準シテ之ヲ決定セリ

鹽ノ品質ハ鹽化曹達ノ含量ニ依リ定メラルヘキモノナルヲ以テ之カ鑑定ハ普通ノ分析法ニ據ラサルヘカラサルモ普通ノ分析法ニ依ルトキハ水分及鹽化曹達量ヲ測定セサルヘカラサル外尙夾雜物中ニ含有スル不溶解分硫酸石灰硫酸苦土、鹽化苦土、鹽化加里等食鹽ノ各成分ヲ悉ク析出測定セサルヘカラサル煩累アリ而モ其ノ測定ハ主トシテ重量分析法ニ依ラサルヘカラサルカ故ニ沈澱生成ノ如キ一晝夜ヲ經ルニ非サレハ完結セサルノミナラス加里定量ノ如キハ其ノ加里ト曹達ノ分離ニ要スル時間ノ如キ少クトモ二日以上ヲ費ササルヘカラス故ニ鑑定法トシテ普通分析法